

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500098		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホームあゆむ		
所在地	大阪府池田市室町7番7号		
自己評価作成日	平成26年4月22日	評価結果市町村受理日	平成26年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2792500098-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあゆむでは家事リハビリ、季節の行事や誕生日やイベントなどを大切にしています。年に1度の温泉旅行は利用者様、家族様、職員みんなで温泉に入り、宴会を楽しみにされています。また去年と比べ家族様にも協力して頂ける機会が増え、病院受診や買物、散歩なども増え家族様が利用者様と顔を合わせる時間が増えました。保育園との交流も引き続き継続し積極的に参加し、また保育園の園児があゆむに来てお互い交流をしています。利用者様が生き生きとした生活と笑顔を特に力を入れています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より4年目を迎えた当ホームは、地域へホームの存在を知ってもらう為に隣地の神社の理解と協力の下、多くの地域情報をもらい利用者と共に参加する中で、地域の理解も深まり新たに自治会にも加入し、交流の輪が広がるよう取り組み始めています。「1人1人が笑顔でみんなが1つの輪になる」と掲げた理念の実現に向け、利用者が地域で安心してこれまでの生活が継続できるよう、職員は笑顔で心がけ利用者の「今」の思いを大切に個別ケアに取り組んでいます。階段昇降機を設置した事で車椅子の方も外出の機会が増え、地域の方が利用するスーパーでの毎日の買い物は近所の方々とお会いする機会となっています。また併設の保育園児は散歩時に気軽に立ち寄りなど日常的に行き来しており、園児との交流は利用者の楽しみを支える支援に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人が笑顔でみんなが1つの輪になるようにというホーム独自の理念を作りスタッフ間で共有している	管理者が提案した理念を基に職員間で考え作られた理念を「一人一人が笑顔でみんなが1つの輪になる」と掲げています。理念に込めた思いの実現に向けては笑顔が第一と考え、笑顔が見られない時はミーティングや日々の中で理念を振り返り、ケアの中で実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	室町会や民生委員や呉服神社様より地域のイベントに声を掛けていただき参加している 挨拶も積極的に行っている 自治会に登録し総会の参加、回覧板や地域との交流を増やしている	民生委員や隣接する神社から地域の情報をもらい、ふれあい祭り等の地域行事に参加しています。併設の保育園児とは日常的に行き来しており、マジックショー等のイベント時は共に楽しんでいます。中学生の体験学習の受け入れでは、事前に学校を訪問し認知症の理解に繋がる取り組みもしています。また自治会の総会に参加し、地域の方々とは積極的に挨拶を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々、電話での問い合わせ、見学があった場合その都度スタッフが受付、相談、内容によってアドバイスをし力になって行くよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議2ヶ月に1回行い意見交換をしたり、助言をいただき、あゆむからは利用者様の状態、イベントの報告し、地域の方々との関わりやサービスの向上に活かしている	会議は市職員や民生委員、神社神主、家族、地域住民の参加を下に開催し、ホームの報告等の後、意見交換をしています。地域との関わり方のアドバイス受け、自治会との円滑な交流に繋がったり、議事録のフォーマットを分かり易く改善する等、出された意見は検討し速やかな対応を心がけ運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居、相談やアドバイス、書類の手続きの際などに助言をいただき質の向上に取り組んでいる	ケアマネジャーは日頃から市に出向く機会があり、その際は積極的に挨拶に行き、近況報告をしています。また介護保険課担当者は運営推進会議にも参加を得ており、気軽に相談できる協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のシャッターは現在していない(ロックがかかる可能性があるため)必要な場合は必ず家族様に了解を得て実施するようにしている。2階入り口はご家族様の希望もあり危険防止のため施錠している 身体拘束を行う際は家族様に説明している	フロア出入り口は安全の為に施錠していますが、外に行きたい様子があれば一緒に出かけるよう努め、長時間の外出にも付き添っています。身体拘束については会議の中で具体的な事例を挙げて説明し、拘束のないケアを実践しています。職員がゆとりを持って対応できるよう人員配置を増やし利用者の自由な生活を支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ニュース、ミーティング、社内研修などで意識統一をし虐待防止に努めている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームの会で専門の方に来て頂き学ぶ機会を持つようにしている。研修自体はほとんど参加していないため今後積極的に取り組む必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1時間～1時間30分時間をいただき契約を行っている。各項目ごとに時間を設け、不明な点は説明、質問の時間を作っている。それでも不明な点があった場合は資料を添える、電話対応をし説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様来所時には声を掛けさせていただき意見、質問、利用者様の現状を話しさせていただく。発言しにくい方にも2階入り口に意見箱を設置し対応している。積極的にコミュニケーション、電話などをし助言をいただき運営に反映させるようにしている	面会時や手紙、電話、メール等で利用者の状況を家族に報告し、意見や要望を聞いています。家族とのコミュニケーションも良好に取れており、外出について個別に出された意見を受けて、全利用者が更に外出の機会を増やせるよう取り組んでいます。また利用者には日々の中で意向を聞き、今行きたいと思う所へ出かける支援に繋がっています。介護相談員を受け入れ、利用者の思いをや意見を引き出せるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中に積極的に声を掛け話を聞くようにしている。そこから出た意見や提案はミーティングで議題にあげたり、サービスに活かし現場に反映するようにしている	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、職員に声をかけて意見や悩み等を聞くよう気を配り、随時個別面談も実施しています。リーダーやケアマネジャーも日々職員の意見を聞いています。意見を受けてミーティングで業務の見直しを検討し、利用者やとゆっくり関わる時間を持つよう改善するなどサービスの向上へと繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って働ける環境になるようスタッフ同士が刺激しあい、やりがいや充実した毎日が送れるような環境を作っている。残業なども意識し、勤務時間内で終了できるようにお互いフォローしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修に参加、社員中心で研修に参加し、社内研修で活かしたり気づきなどを大切に、1人1人職員のレベルアップに繋がっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2～3ヶ月に1回池田市のグループホームの管理者、ケアマネジャー、リーダーが集まる機会があり、意見交換、勉強会、研修、日ごろの悩みなど話す場を設けている。各担当ごとに分かれている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくり時間をかけコミュニケーションをとり本人様の要望などに耳を傾け少しでも安心できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話対応、来所時に家族様にこちらから声を掛けさせていただき、家族様からの要望に耳を傾け、少しでも安心できるような形にもっていけるように努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様にとって何が必要か？大事なのか？職員、家族様、本人様も入り話し合う機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いままでの生活の延長で家庭的ということ意識している。1つの家族としてお互いが支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と本人様だけでなく本人様と家族様の絆を大切にし、家族様にも協力して頂くこと、外食、誕生日、手紙など家族様と本人様が少しでも会って本人様、家族様、職員が共に支えあう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所や店へ行ったりお友達や知り合いの方の訪問があった場合の時間を大切にしている。美容院や商店街など	友人や近所の方などが面会に来られた時は居室へ案内してお茶をだす等、ゆっくりしてもらえるよう配慮しています。馴染みの理美容を利用できるよう付き添ったり、住んでいた家の近くを散歩しています。良く行っていたスーパーへ買い物に行った際には近所の方に出会う機会が多くあります。また家族と法事や墓参りに行く時は、出かける前の準備等を支援したり、希望を聞いて出かける個別の外出支援にも取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で洗濯物を置んだり、洗い物をしたり、談話したりお互いが支えあい生活している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係性を大切にし、必要に応じて相談や情報提供をし、関係が途切れないような体制をとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの聞き取り、おっしゃられた言葉、表情等の気づきを大切に、職員が情報を出し合って本人様の思いや意向の把握に努めている その都度カンファレンスする	入居時には利用者や家族と面談し暮らし方の意向などを聞いたり、元ケアマネジャーからも情報をもらい意向の把握に努めています。入居後の様子や利用者の発した言葉、職員が気づいた事などは日々記録し、思いを汲み取るようにしています。毎月のカンファレンスで記録などを参考に利用者の思いや意向について話し合い、思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の来所持、入居前、入居時に出来る限り情報を収集しスタッフ間で共有する形をとっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフがその都度アセスメント、カンファレンスし現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様、スタッフ間で担当者会議の実施、友人など共話し合いの機会を持ち、医師や看護師の意見も取り入れ現状に合ったケアプランを作成している	初回のサービス担当者会議には家族の参加もあり、アセスメントや利用者、家族の意見を聞き介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い、3か月毎に計画を見直しています。見直しの際にはカンファレンスを開き職員の意見や面会時などに聞いた家族の意向、必要に応じて医療情報を計画に反映させています。日々の記録は介護計画に沿って記録され、見直しに繋げやすくなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート、利用者様の変更点、病院の記録を作成し情報の共有、工夫し実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安全安心に外出出来るように支援している。事業所側だけで送迎などを行わず家族様に依頼したり利用者様と少しでも関わりを持って頂くように支援している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りにある地域資源を活用し、駅も近いこともあり豊かな暮らしを楽しむ事が出来る環境にある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合受診が必要か主治医の先生に相談し家族様に連絡、入居前からのかかりつけ医がおられる場合の対応も出来るようにしている	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、協力医についても説明し決めてもらっています。かかりつけ医への受診は家族が対応し、職員が支援する事もあり、その際の情報交換は口頭で行っています。またかかりつけ医の往診を受ける方もいます。協力医は2週間ごとに往診があり、専門医への受診は状況に応じて家族や職員が対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の在宅医療の医師や看護師と連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が病院へ行き医師、看護師、ご家族様とカンファレンスの場を持って頂き情報交換を行うようにしている。又電話などでも連絡し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いの場を持っている。状態が変化する中で、協力医療機関の方から医療情報提供表を1ヶ月に1回家族様、事業所に頂いている。緊急時の対応に関しても説明しており、必要時家族様、医師、管理者、ケアマネージャーで話し合いの場をもうけている	入居時に基本的には看取り支援は行っていない事を伝え、終末期の対応については、訪問看護で対応できる範囲で支援していることを伝えていきます。重度化した場合は医師が家族に説明し、ホームでの生活が困難な状態になれば家族と相談し、病院や他の施設入所へと繋げています。医師や家族、看護師等と都度話し合いながら方針を共有し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で緊急時の手順や、事故発生時の対応について実施している。期間があくと実際緊急時の時に焦ってしまいスムーズに動きがとれないため定期的に実施するようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制については地域の代表の方から地域の方に話をさせていただいている。避難所なども事前に運営推進会議などでお知らせして頂いている。避難訓練を保育所と合同で行ったり、消防署の方に来ていただき、訓練をしている	消防署の立会いの下、併設の保育園と合同で昼間を想定し、通報や初期消火、避難誘導等の訓練を行っています。運営推進会議で訓練の案内や報告を行っています。地域の防災訓練時には声をかけてもらえる事になり、地域との協力関係を築けるように努めています。	職員が多い日中だけではなく、今後は夜間も想定した訓練もされてはいいかと思うか。

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということの基本としている。不適切な言葉が出た時は職員同士注意し合っている	朝の挨拶など基本的なマナーを大切にし、利用者は人生の先輩として接することを心掛け、利用者の目線に合わせ、柔かい言葉遣いをするよう努めています。入浴介助や食事の介助等は利用者の様子を見ながらプライドを傷つけないよう周りに配慮した声かけや対応を心がけています。また介助の前には利用者に声をかけ了解を得るようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望、選択、自己決定出来るように声掛けに工夫し、言葉でなかなか伝えられない所や、気を使われている所もあるため表情や動きに気づきがあったスタッフは声掛けし積極的対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間などが上手く他の予定などで希望に沿った支援が出来ていない事もあるが、1人1人のペースを大切に出来る限り希望に沿った支援が出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの場所へカットにいたり、化粧品も自分で出来る方はしていただいたり、出来ない方も了解を得てからスタッフが介助している。服は家族様に持ってきていただいたり、スタッフと一緒に買物へ行ったりもする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・食事作り・片づけなどその1人1人の能力に合わせ、していただいている。利用者様に献立を決めていただいたりもしている。みんなですべて行い1日の食事を充実したものにしていく	献立は職員が立て、毎日の買い物は車椅子の方も順番に利用者と一緒にしています。皮剥きや食材を切る等、利用者はできる事に携わっています。弁当を作って出かけた、バイキングやイベント食、寿司などの外食も取り入れ食事を楽しめるよう支援しています。おやつと一緒に手作りしたり、個別に喫茶店などにも出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量はわかるように毎食・毎時間記録している。水分が取れない時、食事が取れにくい時はゼリーを作ったり分割して食事を摂取していただいたり、食事時間をずらしたり工夫している。水分量や食事量は各自意識しスタッフ同士声を掛け合い、昼の段階で小計もとっている。摂取困難な場合は必要に応じて担当医師に指示を仰ぐこともある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。しっかり磨けていない所に関してはスタッフが確認し仕上げ磨きをしている。必要時訪問歯科などでも対応している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を30分刻みでつけ、トイレ誘導などの時間を工夫し排泄パターンがわかるようにしている。さりげなく声掛けをしたり相手の気持ちを考え、対応している	排泄表で個々の排泄の間隔を知り、排泄のサインや行動を察知し、その方に合わせた声かけや誘導を行い、日中は全員トイレで排泄できるよう支援しています。定期的な誘導で失敗やパッドの使用が減った方や布の下着に変わった方もおり、表情が明るくなり穏やかに過ごしている方もいます。カンファレンスで利用者に合った排泄用品を検討したり、退院後は早期に元の状態に戻れるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・適度な運動を心掛け工夫して提供している。便の薬の調節、利用者の訴えや、腹部のはりなどその都度状況に応じて医師に相談している 朝食や野菜類など工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決めているがその時の利用者様の状態に合わせて対応している。入浴日以外を希望された時、汗をかかれた時なども本人様の訴えとスタッフからも声掛けしその都度対応している	入浴は日曜日を除く毎日準備を行い、週3回以上入ってもらえるよう支援し、毎日の入浴も可能です。午前中に声をかけ入ってもらえる方から入浴し、湯は一人ずつ入れ替え好みの湯温を聞いています。菖蒲湯や入浴剤で季節感や温泉気分を味わってもらい楽しめるよう工夫しています。拒否される時は声かけの工夫や時間を変えて対応し入ってもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて昼寝をしていただいたり、ベッドであしを伸ばして頂き休んでいただいたり、夜間帯布団の調節、冷暖房で調節したり本人様が安心して気持ちよく眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をまとめ確認出来るような形をとっている。日付、名前など読み上げ服用して頂いている。薬が変更したとき、飲み方に変更があった場合は、申し送りを口頭・ノートに記載し徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味・生活歴・あゆむに来てからの気づきなどその方その方にあった楽しみを見つけ過ごして頂くように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店やドライブ、買物、『今したいこと・やりたいこと』利用者様の訴えを出来る限りその場その日に対応できる様な形をとっている。家族様と外食・外出・美容院へ出かけた事もしている	雨の日以外は毎日買い物や散歩、喫茶店、ドライブ等外出の機会が日常的にあり、法人合同の一泊バス旅行や初詣、季節の花見等に出かけています。利用者が今行きたいと思っている場所へ出かける個別の外出支援にも取り組んでいます。また敷地内の保育園に出かけたり、花の世話等で戸外へ出る機会を多く作っています。	

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からお金を預かりスタッフが金庫で管理している。家族様と本人様の希望により能力に応じて個人的に持っておられる方もいる。支払いを買物時ご自分でされる方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に負担がかからないようにし、希望があった場合は電話をしたり、電話があった場合は本人様にかわり電話で話をしたりする。手紙やはがきを購入し家族様に書かれる方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱するような場所の移動、物の設置は避け本人様が生活しやすいように整理整頓を本人としたりして過ごしやすい環境を整えている。温度・湿度管理も徹底し日中スタッフから夜勤スタッフへ申し送りをし調節し対応している	カーテンで日差しの調整や窓から風を取り入れたり、温湿度の管理等、リビングで心地良く過ごせるよう配慮しています。テーブルの配置も其々工夫し、家庭的な雰囲気の中で利用者が会話を楽しみながら笑顔で過ごせるよう支援しています。廊下の角に置かれた椅子では、一人や気の合う方同士と一緒に過ごされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりできる空間をつくったり、椅子を設置したり、居室で過ごしていただいたり、リビングで過ごして頂くにも声を掛け気の合った利用者様と過ごせるような環境を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様・本人様と相談し馴染みの物を置いたり、本人様が使いやすい位置に置いたりし居心地よく過ごして頂くようにしている	居室はエアコンと木製のベット、クロゼットが備え付けられ、利用者はテーブルや椅子、タンス、仏壇、ラジオ等、大切な品々や馴染みの物を持ち込み、その人らしい居室作りへの工夫がされています。仏壇の世話をしたり、編み物や好きな絵を描く方、気の合う方と一緒に過ごす方もおり、居心地良く過ごせる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様1人1人のADLを把握し、力を引き出し出来るだけ自立した生活が送れるように支援している。利用者様が出来ること・出来ない事をきっちりと判断し対応している		